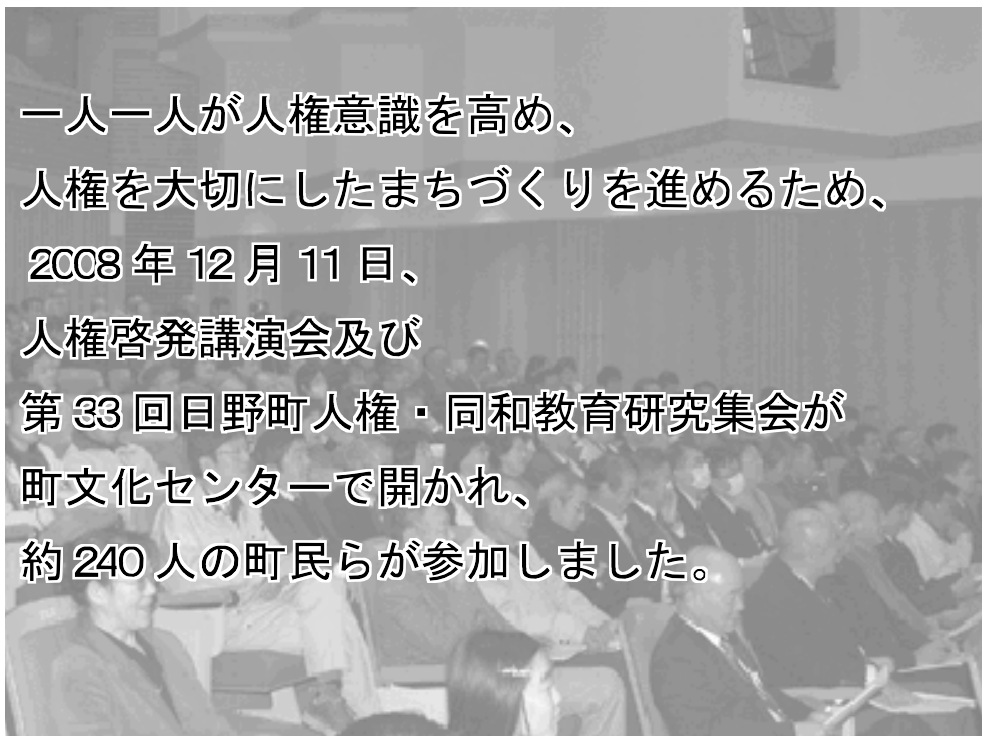


人権の種をまこう、育てよう

人権啓発講演会および町人権・同和教育研究集会



一人一人が人権意識を高め、
人権を大切にしまちづくりを進めるため、
2008年12月11日、
人権啓発講演会及び
第33回日野町人権・同和教育研究集会が
町文化センターで開かれ、
約240人の町民らが参加しました。

実りある研究集会に

開会行事では、はじめに景山町長が主催者を代表してあいさつし、「国内では、毎日のように、人権を無視した事件が起こるなど、自己中心的な世の中になっている。人間らしい世の中を築くため、この集いが実りあるものになってほしい」と訴えました。

また、矢田貝勝実行委員長が、「研究集会が目指すもの」について説明しました。

研究集会が目指すもの

(要旨)

誰もが心豊かに、安心して暮らせる社会づくりのためには、すべての人の人権尊重が不可欠です。そのためには、一人一人が人権意識を高め、人権を重んじた地域づくりを目指して、日々の暮らしに生かしていく取り組みが求められます。

私たちは、昨年の第32回大

会で、さまざまな人権課題の中から、同和問題、高齢者、子ども、障がい者の人権問題を取り上げ、シンポジウムで問題解決のための研究を行いました。研究内容のうち、一人一人が行動を進めていく面の討議が深まりませんでした。

今回は、この反省に立ち、まちの重要課題である超高齢化社会の問題「高齢者の人権」をテーマに、高齢者が生きいきと、希望を持って暮らすことができる地域社会を目指して、どのように取り組むべきかを討議いただきたいと思えます。

このため、鳥取短期大学の山田修平学長を講師に迎え、「支えあうまちづくり、いきいき生きるまちづくり」と題して講演いただき、シンポジウムへ導入していきます。

シンポジウムでは、高齢者の生活実態を、家庭生活、地域生活、介護の3つの側面からとらえ、報告者から報告いただき、それを受けて、人権をキーワードに、具体的

な問題や課題を確認し、「高齢者の人権基準」と「大切にすべき視点」をさらに深めていただきます。

今回は、研究主題を前回と同じく、「あたたかい日野町、人権の種をまこう、育てよう」としました。この精神のもと、一人一人ができること、地域ぐるみや町民みんなで取り組むことなどの、人権尊重のまちづくりを目指した「行動化」への議論を深め、今日からの取り組みを、参加者全員で考えたいと思います。

この研究集会の課題や成果が、各地域での小地域座談会でさらに深く話し合われ、明日からの地域づくりにつながっていくこと、また、企業や団体、グループなどでさらに研修され、その成果を行動の一步につないでいくことも、研究集会の目的の一つです。

シンポジウムが、参加者の皆さんの、建設的で積極的な意見交換の場になり、より大きな成果が得られることを期待します。



人づくり・地域づくりのヒントに

今回の人権啓発講演会では、鳥取短期大学学長の山田修平さんを講師に迎え、人と人権のつながりから考えたまちづくりについての講演が行われました。

講演内容（要旨）

高齢化が進む現代では、高齢者を高齢者が介護する、「老老介護」の問題があるほか、さらに、認知症患者を高齢者が介護する「老認介護」、双方が認知症の「認認介護」が起きています。

これは当事者だけでなくみんなの問題。子育てにしても介護にしても、家庭の機能が非常に弱くなっていると感じます。人同士の生のつながりが薄くなる中、どうやって地

域づくりをしていけば良いのでしょうか。

家庭のあり方

安らぎの時間を提供する、これが家庭の原点。しかしそうした心遣いを忘れがちです。心遣いは、やはり会話から。また、それぞれが家庭の中で役割を持つこと。それで家庭のあり方も変わってきます。

地域の中で

人、自然、伝統、文化や産業など、複雑に絡みあつたものが地域。この地域を良くす

心の「コップ」、こころも上向きに

人権啓発講演会

「支えあうまちづくり、いきいき生きるまちづくり」

そのため、どんな小さなことでも、何げないことをみんなやってみてはどうでしょう。

たとえば、あいさつ。相手の名前を呼んでからあいさつしてみよう。また、みんながそれぞれ足元に落ちていく紙くずを拾ったりして、美しい地域づくりをしてみては。また、健康づくりに取り組んでください。自分だけでなく、家族や他人の健康にも目配りしてみよう。

そして、地域の中で役割を持つてみましょう。ボランティアと大きなことを言わなくても、地域活動や老人会、PTAなど、ささやかな役割を持つことで世界が変わってきます。

人生を豊かに

ポイントは3つ。

- ① 傾聴：体全体を耳のようにして相手の話をよく聞く。まちづくりの第一歩は聞き上手になること
- ② 共感：同情ではなく、相手に寄り添い、同じように感じましょう
- ③ 受容：ありのままの自分を

受け入れる。相手を受け入れるには、まず相手を知ることでも、そのためには自分を知らしましょう

心のコップ

心の状態をコップに例えてみましょう。心のコップがいつも下向きだと、いくら吐つてもコップに水は入りません。コップを上向きにするには、相手を誉め、認めること。一見短所に見えることでも、長所はあると思います。

人は、自分のことを認めてくれる人の話はよく聞きます。お互いの心が上向きになるような関係を作りましょう。

最後にすてきな言葉を

ある人の講演会で、すてきな言葉に出会いました。

- ▽ 「ありがとう」：不幸なことがあったときも、ありがとうと言いましょ。不幸の連鎖を断ち切れます
- ▽ 「感謝しています」：きれいな言葉を話すと、それが心になり、行動になり、人格になります
- ▽ 「ツイている」：物事をプラスに考える。ピンチもチャンスになります

今日、皆さんの前で話ができたことはツイています。感謝しています。ありがとうございました。



山田修平さん

1945年岐阜県生まれ、京都府育ち。

1979年、鳥取女子短期大学に着任。

2002年、鳥取短期大学学長就任。

現在、鳥取県教育委員会委員長も務める。

専門は労働経済、社会福祉と幅広く活躍。